



樹里安だより

ジュリアン

2004年12月
Vol.16



— 安行の名所 (その三) —

峯ヶ岡八幡神社 《川口市峯》

平安時代の天慶年間(938~947)に源経基の創建と伝えられ、かつては足立郡谷古田領32か村の総鎮守に列せられた由緒ある神社である。江戸時代中期以降江戸市民の日帰り旅行の格好の目的地となった。

九重神社の

スダジイ

(川口市安行原2042)

「九重神社のスダジイは一見の価値がある」と地元の方の噂を耳にして安行原の九重神社に足を運ぶ。九重神社は旧原村の氷川神社で地元の方から「氷川様」と呼ばれて親しまれてきた神社である。場所は密蔵院の隣の丘の上にある。創建はその密蔵院を中興した第十六世法印栄尊が享保年間(1716年～1736年)に武蔵国一ノ宮大宮氷川神社より勧請したと伝えられる。

階段を上り神社を目指す。丘の上から振り返ると安行の自然の素晴らしい景色が一望できた。寺社と周りの自然のコントラストはまるで京都や奈良の一風景のようだ。「安行にもいい所があるもんだな」と思わずため息がでてしまった。スダジイは社殿の脇で緑を豊かに繁らせていた。遠くから見ると1本の木に見えた。しかし、近づいてみると数メートルあけて立派な大木が2本あった。2本の木から伸びている枝が高いところで重なり合っているため1本の木に見えたようだ。樹齢500年の樹木と聞いてどんな木かなとあれこれと想像していたが、なるほど地元の方の噂のとおり素晴らしい大木である。デジタルカメラに収まるのも一苦勞の大きさ、ものすごい存在感。宮司さんのお話だと、体が大きくなりすぎて、自らの体を支えられなくなってきており、5年前に枝を大部間引いたそうだ。また昭和21年頃、九重神社の社が火災にあった時、このスダジイも体の一部が焼けてしまい、今も焼けこげた跡が痛々しく残る。木の上では、毎年夏になるとアオバズクが巣を造る。500年もの間に様々なドラマがいくつもあったのだろう。

500年前といえば室町時代から戦国時代に突入した時代である。「ひょっとしたら、安行を一番よく知っているのでは」と思うほど歴史のある木だ。焦げ茶色で彫りの深い幹を見ているとノスタルジーに浸ることができる。まさにこの大木は、時代の掛橋といえるだろう。



◀ 丘の上から見た風景



スダジイ

C.cuspidata var. *sieboldii* (ブナ科シイノキ属)

- 分布：沖縄・九州・中国・本州南・中部・台湾・朝鮮半島
- 高さ：30m 幹周り3mになる常緑広葉高木
- 用途：庭木・防火・防風樹・建築・器具・船舶材・シイタケの原木
- 中庸樹からやや陰樹
- 開花：5月～6月。幼木はやや日陰に生育する。成木は陽光地に耐える。生長は速い。萌芽力は大。刈り込みに耐える。深根性。風害に強い。移植は容易。大木の移植可能。潮風、煙害に対して強い。防火力あり。雌雄同株。
- 葉は濃緑色、葉裏が褐色のところがあるとして、江戸時代から大正、昭和初めにかけて一般に好まれた。



九重神社の保存樹木

樹種	科名	指定年月日	指定番号	所在	幹周	樹高
スダジイ	ブナ科	H12.9.1	12	安行原2042	6.5m	16.0m
スダジイ	ブナ科	H12.9.1	130	安行原2042	4.0m	17.5m

ネグンドカエデ 'フラミンゴ'

Acer negund 'Flamingo'

人気が高いカエデ類。春の新緑・秋の紅葉を楽しめます。今回ご紹介するネグンドカエデ 'フラミンゴ' は新葉がピンク色をしていて、一斉に染まる姿はフラミンゴの群れを思わせます。葉はだんだん白くなり緑色になります。白の不規則な覆輪葉は特徴があり涼しげな感じを醸し出しています。伸びが良いので、風の被害にあわないよう、2~3月には強剪定しても萌芽します。

都市近郊のお庭にもってこいの素材といえます。



ネグンドカエデ 'フラミンゴ' *Acer negund* 'Flamingo'

(ネグンドカエデの斑入り種)

カエデ科カエデ属 (別名 トネリコバノカエデ)

- 原産地：北アメリカ
- 樹 高：3m~5m
- 枝張り：2m~3m
- 落葉広葉樹
- 土 壌：水持ち・水はけのよい土を好みます

資料提供：(社)日本植木協会青年部埼玉支部川口青年部、(協)川口園芸販売



敬老や長寿祝い

マツ マツ科マツ属 (常緑針葉樹・高木・陽樹)



五葉松



赤松



黒松

よりしろ

敬老・長寿の慶事にはマツがふさわしい。わが国では、マツを神の依代として、門松などに用いてきた。また、全国にマツの巨樹・名木が多数あり、しめ縄が飾られ神聖視されているのも、マツが特別に長命であることに霊力を感じるからだろう。天然記念物指定のものも多い。タイマツに「松明」の字を当てるのは、火力が強く火持ちがよいことによる。年長者を末永い導きの明かりとして、敬意をこめて植樹する。

- 特徴：** 開花期4～5月、結実期翌10～11月。生長は早い。クロマツ、アカマツ、ゴヨウマツなどがある。
- 植えるときの注意：** 時期 2～4月
場所 日当たりのよい乾燥地を好む。
- 管理のポイント**

樹形を考えながら新芽を摘むみどりつみ、6～7月の不要枝のせん定、秋から冬の高葉とりなどを行う。マツケムシなどの害虫は見つけしだい駆除する。

《 他の木 》



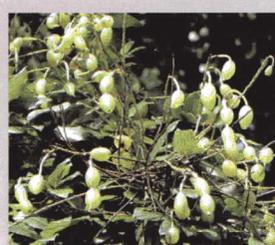
グミ

常緑/落葉広葉樹
低木・中庸樹



サツキ

常緑広葉樹
低木・陽樹～中庸樹



エンジュ

落葉広葉樹
高木・陽樹



ナンテン

常緑広葉樹
低木・中庸樹～陰樹

参考：(財)日本緑化センター 木を植えよう 記念樹にふさわしい木とそのいわれ



花見の文化

春になると公園や河原などでレジャーシートを引いて食事をし、お酒を飲み桜の花を見て楽しむ人々の姿がテレビなどに映し出されます。

花見というと我々日本人は桜を連想させますが、遠い昔からそうだったわけではありません。奈良時代の花見の主役は梅でした。万葉集には梅を詠んだ歌が118首ありました。梅はこの時代の貴族や文化人にたいへん重宝され、花見は貴族文化の象徴

とされてきました。梅が気高さや高貴さを醸し出しているのはこうした歴史があるからだと思われま

す。時代が移り変わり桜が花見の主役になったのは、平安時代になってからでした。古今集の春の歌134首のうちほとんどが桜の歌になっています。仁明天皇の時代(承和年間)御所の紫宸殿の前庭にあった左近の梅が、桜に変わったと伝えられています。また、農村では桜の咲き具合でその年の豊凶を占う農事として時期は定かではないですが花見が古くから行われていたと言われています。この当時の桜といえば「山桜」をさします。安土桃山時代では豊臣秀吉が催した1598年の「醍醐の花見」がたいへん豪華で、現在でも語り継がれる有名な出来事です。

太平の世であった江戸時代は、学問・芸術・文化などが多いに栄えた時代でした。お花見も支配階級から庶民にも広がり上野・浅草・隅田川堤・新吉原・飛鳥山などが桜の名所として発展しました。江戸幕府は庶民に娯楽を提供するとともに都市計画の目的として大々的に植樹を行いました。ヨーロッパにも庶民向けの公園がない時代に日本にその先駆けがあったことは誇らしいことです。江戸の郊外に植樹したことは花見の大衆化につながりました。この時代は参勤交代や庶民の旅行などで中央と地方に多くの桜の品種が離合集散を繰り返しました。その結果、多くの栽培品種(約500種)が誕生しました。そして桜の革命児「ソメイヨシノ」が誕生します。「ソメイヨシノ」は庶民の手によって庶民のために生み出された桜で、まさに現代人のお花見の出発点といえます。

明治時代に入り、近代化のため、西洋文化を急激に導入したため、日本古来の文化が軽視され、多くの桜の産地も荒廃しました。大正時代に一度、復興運動でいくつかは種族保存されましたが、昭和に入り太平洋戦争で多くの名品種が絶滅したといわれています。また、この戦争中、桜が軍国主義の象徴にまつりあげられました。桜にとってもつらく苦い時代だったと思います。

現在は、桜の系統・分類の研究などが多くの有識者の手によってなされ、その結果、品種の再発見、品種の統合、新品種の作出などが行われ、以前の品種に加え、昭和生まれの品種などが誕生し、多くの品種が全国で生成保存されています。



花見は日本独自のもの？

桜はヨーロッパ、アジア、アメリカなど世界の国々にあります。しかし、日本のようなスタイルでお花見をする国は他国にはないと言われています。ただ一つブラジルだけは同じようにおこなっているようです。しかし、実際花見をしているのは日系人グループです。お花見は日本独自の文化といえます。



安行の桜・安行寒桜 *Cerasus* × *Kanzakura* “Oh-Kanzakura” Ohwi バラ科サクラ属

地元安行にも誇れる桜があります。安行寒桜です。この桜はオオカンザクラとも呼ばれ、花期は3月中旬～下旬で、染井吉野より半月程早く満開になります。カンヒザクラとオオシマザクラの種間雑種と考えられる栽培品種です。安行慈林の田中一郎氏宅にあったものを、小清水亀之助氏が増やしたのが最初です。始め船津金松氏がアンギョウカンザクラと名付けて発表、その後相関芳郎氏がオオカンザクラと命名しました。3月中旬になると緑化センターの駐車場でも淡紅色の花が次々と咲き出します。





土について (その三)

★腐葉土： 広葉樹の落ち葉が堆積して、腐ったもので、代表的改良用土です。

通気性、保水性、保肥性に富んでいます。微量元素を含み、微生物を活性化して土質をよくします。赤玉土などと混ぜて使います。

★ピートモス： 湿地の水ゴケ類などが堆積して、泥炭化したもので腐葉土のかわりに多様されます。保水性が大きいので、乾きやすい土の改良に向いています。

★堆肥： 堆肥とは本来馬・牛などの糞尿とわらなどを混ぜて一定期間放置発酵させたものをいいます。現在はバーク堆肥(バークチップを発酵させた)、や豚・鳥といった家畜の糞尿がまざったものも多くなってきています。堆肥は肥料分を含んでいて植物に必要な養分を土に供給しますが十分な量ではないので、肥料は別に施します。改良用土としては腐葉土と同様の働きをします。

★パーライト： 真珠岩を急激に焼成したもので多孔質で軽い白色をしています。土壌の通気性、排水性を高めます。

★バーミキュライト： 蛭石を高温処理して膨張させたもので、たいへん軽く保水性・保肥性に富み、通気性もあります。



発行日：平成16年12月1日
発行：財団法人 川口緑化センター
〒334-0058 川口市安行領家844-2
TEL 048-296-4021

ホームページ：<http://www.sainet.or.jp/~jurian/>